

平成29年度 国立大学法人岩手大学入学式 告辞

1,120名の新入生の皆さん、入学おめでとう。本日、ご来賓の皆様を始め、多数のご家族の皆様のご列席のもと、新入生を迎え、平成29年度岩手大学入学式を挙げていただけますことは、本学にとって大きな喜びであります。

また、皆さんをこれまで支え、励まして来られたご家族の皆様に対して、深く敬意を表し、お祝いを申し上げます。

まずは、皆さんが大学進学を決め、多くの大学の中からこの岩手大学を選んでくれたことを感謝します。それぞれ将来の目標を持って入学されたわけですから、それに応える義務を私たちは持っています。人間としてあるいは専門家として皆さんが大きく成長することを期待します。

岩手大学は「グローバルな大学」を目標としております。様々な課題に対しグローバルとローカルの両方の視点から解決し、社会のリーダーとなることを皆さんに期待しております。そこでリーダーとなる条件を考えてみると様々な能力、資質が求められます。それが全て大学時代に得られるかといえば、否であります。ではその基本的なものはなにかと考えれば、私は「科学的に考える力」ではないかと思えます。

福島原発による農水産物等の風評被害や東京都の豊洲市場移転の問題でも「安全と安心」が議論されております。安全は科学的根拠に裏付けされた普遍的なものであり、安心は信用、信頼など感覚的であり個人差があります。科学技術、あるいは自然科学、社会科学、人文科学など日常的に使われている「科学」ですが、辞書によれば「一定領域の対象を客観的な方法で系統的に研究する活動、またはその成果の内容」ということになります。従って、「科学的に考える力」とは客観的、論理的に事象を解明、理解し、そして表現していく力ともいえます。大学の使命は研究とその成果を活用した教育と、それらをベースにした社会貢献です。皆さんがこれまで学んできた知識も、これから学ぶ知識も先達たちの研究成果を体系化したものです。一般にこれらは常識として受け入れられますが、これらの結果に疑問があれば確かめてみるのが科学の進展に繋がります。

科学リテラシーという言葉があります。研究等で得た科学的な成果を信用し活用する能力です。科学リテラシーを高めるとは客観的根拠をもとに判断していく能力を高めることで、大学における教育の大きな目標です。最近の忌まわしい現象はSNSでのフェイクです。客観性のない情報を発信する人に問題がありますが、それを簡単に信じてしまう人にも問題があります。皆さんが様々な事象を見てそれを理解するとき、何が正しく、それがどこまで正しいのか、客観的な情報をベースに一人一人が判断することが大切です。

では科学的に考える力を養うには何をすべきか。これが今日の私の話の結論になりますが、私は「知的好奇心を持つ」ことがそのスタートではないかと思えます。事象を見て何故かと問い、

その原因を考えてみる。ノーベル賞を授与された人の研究原点はこれに繋がります。私は機械工学の教員でした。同じ現象、例えばある機械の摩擦はなぜ大きくなるかを学生と議論すると高学年になるほど議論は深まりました。それは、解らなければ調べることの積み重ねで知識が蓄積され、原因をもたらすと考えられる要因が増えてくるからで、多面的な議論が可能となります。最終的にはこの延長が大学院の修士課程や博士課程での研究です。先ずは何故かと問いかけてください。そしてその理由を考えてください。

さて、6年前の3月11日の東日本大震災発生時は、皆さんの多くは小学校卒業の時期だったはずですが。被災された方もいるでしょう。岩手大学では復興に関わる活動をしてきましたし、これからも継続していきます。皆さんは全員被災地学修で沿岸を訪問し、当時の様子と復興しつつある現状を見るはずですが。震災の状況を学ぶことは本学の教育の特徴であり、復興プロセスに関心を持ちつづけていただきたいと思います。このことによって、皆さんが将来、日本の課題である地方創生に貢献できると信じています。

最後に、保護者の皆様にお願ひがあります。大学では彼らを自立できる立派な大人とみなします。是非、彼らの自由な発想や選択、行動を尊重して、時には励まし、今後の成長と一緒に期待しましょう。大人である彼らに対し過大な干渉は彼らの成長を阻害します。

大学は社会の状況を反映して常に変化を求められ、新たなことに挑戦しなければいけません。新入生の皆さんも我々と一緒に新たな岩手大学を作りましょう。その積極さを期待して入学式における告辞といたします。

平成29年4月7日

国立大学法人 岩手大学長 岩淵 明